

## 同期会開催等について

浅野学園同窓会では、各同期会の開催を支援しています。

### 【同期会開催の注意点】

#### 同期会開催支援金制度について

同窓会では、昨年より同期会の活性化を図ることを目的とし、支援金制度を設けました。

支援金の概要としては、まず卒業後初めての同期会には10万円、そして周年同期会（卒業10周年、20周年など）には、5万円が支援されます。但し、いずれも出席予定者が30名以上であることが条件となります。

尚、申し込み方法などの詳細につきましては、同窓

会ホームページでご覧いただけますので、幹事の皆様におかれましては、是非ともご活用をお願い致します。



### 【住所変更登録のお願い】

住所等の変更が判明した場合は、ご本人様から浅野学園同窓会ホームページに名簿変更の申請をさせていただきますよう宜しくお願い致します。

## 会費について

日頃は、浅野学園同窓会の会務運営に際しまして、会員の皆様方の多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝致しております。この場をお借り致しまして、深く御礼申し上げます。

当会の年度会費並びに終身会費は約30年以前の改定以来、数次の消費税増税や郵便料金値上げ等にもかかわらず、長年会費を据え置いたまま運営をして参りました。しかしながら、将来にわたる同窓会活動において、

不可欠といっても過言ではない、健全な財務基盤の維持を図るべく、2023年度より会費の改定（年度会費：2,000円→3,000円、終身会費：21,600円→36,000円）を実施させていただいております。会員の皆様方におかれましてはご負担増となりますが、諸般の事情をご賢察いただき、ご理解をいただくとともに、引き続きご支援とご協力を是非賜りたいと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。 財務委員長 西田 慎也（65期）

## 同窓会の部屋

9月15日（日）、16日（祝）に開催された第45回打越祭において湧井会長以下Team Wakuiのメンバーを主体とした「同窓会の部屋」を運営しました。昨年から新たに7名を加え、合計18名の同窓会員のパネル紹介を行い、来場者からの評判も上々でした。来場されたOB諸氏には、今年度から開始した「同期会支援制度」の紹介もを行い、積極的な利用をお願いしました。同窓会がより一層充実した会となるためには、同期会の充実なくしてはあり得ません。

総務委員長 村椿 泰彦（56期）

県西地域でスーパーマーケットを運営するヤオマサ株式会社の田嶋享名誉会長より、九転十起の「だるま絵」を寄贈していただきました。この絵は、小田原出身の達磨句画作家 三廻部蕃さんが制作されたものです。関係者をご招待し、打越祭「同窓会の部屋」にて贈呈式が行われました。



## 編集後記

今年の表紙には、古梶校長先生より寿像のアップ写真をいただきました。浅野総一郎先生が何かを語り掛けられてるような写真です。今年の総会には若手の卒業生が数多く参加されました。広報誌・ホームページ・フェイスブックによる広報活動が徐々に浸透してきたのではと勝手に喜んでいます。これからも卒業生の皆様を楽しめるような活動を目指してまいりますので、ご参加の程よろしくお願い致します。

### フェイスブックグループ「銅像山通信」



銅像山通信【浅野学園同窓会】さんの...  
銅像山通信【浅野学園同窓会】グループ



広報委員長 星 淳一（59期）



# 銅像山通信

第  
27  
号



撮影：古梶裕之校長

## 浅野学園同窓会会報

2024年度版

発行日：2024年12月25日 発行人：浅野学園同窓会

## ご挨拶

## 未来永劫変わらないもの



浅野学園同窓会  
会長 湧井 敏雄 (45期)

2024年は、能登半島地震で幕を開けました。大きな被害の報道に、被災者の方々のことを思うと胸が痛む思いでした。我々浅野学園のOBが敬愛する総一郎翁の出身地である氷見市も、少なからぬ被害を被りました。氷見市の方々は、我々と同様に、かねてから郷土が生んだ偉人として総一郎翁の偉業を顕彰してききましたので、その氷見市の一日も早い復興を願い、同窓会から義援金をお送りしました。

日本は元来自然災害の多い国ではありましたが、「気候は温暖」である、と信じてきましたが、どうやらこの認識を改めねばならない時期に差し掛かっているようです。少し前までは、庭への水まきは夏の楽しみの一つでした。今年はその水まきさえ暑くて出来ない、といったことで、今年の夏の暑さはまさに「異常気象」が我々の日常に大きな影響を与えるようになったことを実感させました。温暖化対策は世界中で講じられているはずですが、国内でも頻発する大雨による水害をみても、なかなか現実に追いつかない状況のようで、これからのさらなる温暖化が懸念されます。

いつ何時地震が起きるかわからないわが国で、気候さえも激変するようになると、我々を取りまく環境の中で安定しているものはほとんどないことに気づきます。長い間、「水と空気と安全はただ」「来年の生活は今年より良くなる」、とばかり「平和ボケ」に安住してきた団塊の世代のわたくしも、「先はどうなるのか」と一抹の不安を感じるようになりました。ましてや、ずっと若い世代の方々はなおさらだろうと思います。未来永劫変わらないものの大切さに改めて気づかされます。

未来永劫変わらないもの、その最大のものは家族愛や思い出、友情といった、心に蓄積された経験や記憶ではないでしょうか。我々浅野のOBは、学園での勉強やクラブ活動など、各自の思い出と同級生や先輩後輩方との友情、そして恩師への敬愛といった、経験や記憶を共有しています。同期はもとより、期が違って、浅野での経験を共有するOBは、それだけで親近感を持つ関係だと思えます。これは、浅野学園で過ごした日々が卒業生に与えてくれた大切な宝物であり、人生を切り開く武器の一つだと思います。同窓会は、同期会の定期的な開催は浅野での生活の意義を再確認しあう場として特に有効だと考えています。こうしたOBの懇親活動を支援するため、同窓会では「周年同期会」開催への資金援助の仕組みを制度化しています。ぜひともご活用ください。詳しくは同窓会のホームページをご覧ください。

## あれもこれも



浅野中学校・浅野高等学校  
校長 古梶 裕之 (61期)

7月の最後の土曜日、卒業して56年ぶり（半世紀以上ぶりですね）という卒業生、総勢16名の方々が校内の見学にいらっしゃいました。ご縁があって、校内をご案内させていただきました。当時と全く変わっていない建築物は何もなくて、銅像山（銅像の前に100周年の記念リングが建設されています。このリングを一周すると、浅野総一郎翁の足跡を見ることが出来ます）の見学と記念撮影をして、その後、大階段（真ん中に手すりを取り付けました）からグラウンド（全面人工芝です）を展望しました。大階段の隣にあったA棟や芸術棟は取り壊され、現在ではハンドボールコートになっています。もちろん、「夢の橋」もありません。本館から講堂前（ここに浅野サクさんの胸像があります）を抜けて図書館へと向かいます。途中、渡り廊下（当時は木造でしたが、現在では鉄筋コンクリート造りとなっています）を通り、図書館（かつて中学1、2年生の教室のあった校舎跡地に建っています）に向かいました。図書館は2階建てです。自由に見学していただきました。その後、高校生の教室（現在の高校校舎は理科館や購買部、食堂などがあった場所に建っています。ちなみに、中学校舎は記念館と小講堂のあった場所に建っています）を見ていただき、打越アリーナ（体育館です）に向かいました。ボクシング場（ちょうど、ボクシング部が合宿中で、生徒が話し相手になってくれました）、柔道場、剣道場、卓球場などを見ていただき、2階のランニングコースからメインアリーナも見えていただきました。「昔は屋根がギザギザだったんだよね」「暑くてな」「ボールはよく弾んだな」など当時のことをお話されていました。

アリーナの入口で解散となり、その後、生麦のキリンビール横浜工場に向かわれました。皆さん、まだまだ声も大きく、お元気で、ご達者な様子でありました。卒業して半世紀以上が経っても、こうやって仲間と誘い合って、母校に来ていただけることは、とても素敵なことだと思いました。きっと、校内を歩いているときには、想いは中高時代に帰っているんだろうな、と考えておりました。

道中、「我々のときは1クラス60名で5クラスでさ」という話題が出てきました。私のときは1クラス50名で5クラスでしたから、そんな時代もあったんだな、と感じた次第です。現在は1クラス45名で6クラスですが、来年度の中学1年からは1クラス40名で6クラス、240名となります。時代の流れ（少子化）に対応するために1学年の人数を減らします。学校は、いろいろところで、変化をしていきます。

今後も母校へのご支援をよろしく願いいたします。

## 浅野中学校・浅野高等学校の近況報告

## 2023年度 部活動 活動報告



## 部活動に参加し心身を鍛える

部活動は学園生活を豊かに広げ、心身を鍛える絶好の場です。活発な活動を通して、生徒たちは自らの夢と可能性に挑戦するために、体力的鍛練・学究的努力・技術的修練・精神的陶冶を重ね、リーダーシップや協調性・判断力・ルールの意味などを学んでいきます。

## 浅野学園の進学指導・進学実績



## 第一志望の大学への進学を実現する「進学指導」

本校では日常の授業を大切に、学習習慣を身につける指導を徹底しています。遅れている生徒には補習や追試、夏の講習などを実施しています。また、英・数・理では中学2年間で中学校の学習内容を履修し、中学3年から高校の教材を取り入れていきます。高校2年からは希望進路に応じた授業体系に移行し、高校3年では各大学の入試に対応した演習を含んだ授業が行われます。

## メディア露出



- ・朝日新聞EduA「注目校に聞く」：「古梶校長に聞く」が掲載されました。
- ・日能研「シカクイアタマをマルくする。」：電車内に、浅野の入試問題が掲載されました。
- ・日本テレビ『超無敵クラス』：渋渋さんとディベートバトルをした模様が放送されました。
- ・生物部がサメの解剖をしている様子や、鉄道研究部が模型コンテストに参加したことがニュース等で放送されました。

## 浅野学園史料室デジタルアーカイブ



創立者・浅野総一郎と初代校長・水崎基一の略歴・業績・文献・書・写真をご覧になることができます。



## 能登半島地震に伴う氷見市への義援金について

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、浅野総一郎翁の出身地である氷見市も少なからぬ被害を受けました。氷見市民はかねてより浅野総一郎翁を郷土の偉人として顕彰し、また、その偉業を市民が長年にわたり共有してきました。よって、震災により被害を被った氷見市民を、浅野学園同窓会として支援するため、2024年3月8日、50万円を義援金として氷見市に寄付いたしました。

1日も早い復興を願うばかりです。

### 2024年度 浅野学園同窓会 総会・懇親会

日時 2024年6月1日(土)  
会場 ローズホテル横浜



#### 佐藤親睦委員長より 総会・懇親会の感想

2024年度 浅野学園同窓会 総会・懇親会を振り返って  
本年度の総会において親睦委員会は、昨年施行された「同期会開催支援金制度」についての説明をさせていただき、出席された皆様のご理解を得られるように努めました。  
また懇親会は、昨今の物価高の影響を受け、今までより少々地味な会となりましたが、69名もの同窓生が集い、中には20代の若い卒業生の出席もあり、来年以降が楽しみなものとなりました。 親睦委員長 佐藤 義賢 (52期)

## 部活動OB会報告

### 剣道部創部100周年祝賀会

2024年11月9日に浅野学園剣道部創部100周年祝賀会が横浜桜木町ワシントンホテルで開催されました。剣道部OBのみならず、古梶校長先生と顧問の先生方、御父母にも参加頂き、また剣友としてアイルランド剣道連盟から3名の方が出席し80名の大盛会となりました。

また、皆様に心温まる祝辞を頂き、改めてここに御礼申し上げます。

浅野学園剣道部の創部は1925年（大正14年）に遡ります。戦前のOBには第3代校長の浜野先輩、第4代校長の石山先輩、日本社会党の爆弾男で元郵政大臣の大出俊先輩、横浜水信会長の加藤先輩等、多彩な先輩たちが名を連ねておられました。戦後GHQの武道禁止令により閉部していた部活動の再開は1960年（昭和35年）でした。戦前の先輩たちの意向で合同OB会を立ち上げたのが1992年（平成4年）。翌年からOB会主催の校内大会を毎年行い、既に30年を超える歴史を作り上げてきました。この100周年を一つの区切りとし、伝統ある浅野学園剣道部の益々の隆盛と、次の100年に亘り連綿と紡がれる剣道部の絆を後進に託していきたいと思っています。

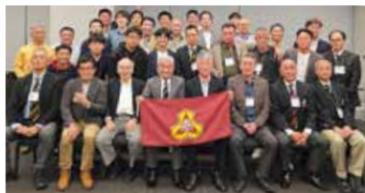


種子島 俊彦 (剣道部第4代OB会長)

### ラグビー部創部75周年OB総会・懇親会

11月2日、1949年創部のラグビー部は75周年を迎え、OB総会（参加者約40名）と懇親会を開催しました。君塚真（65期）会長は「中学生で10名を超える部員になり、単独でチーム編成ができるようにもっとOB会が現役選手を支援したい」と挨拶。加藤正文（46期）元会長の乾杯の挨拶で始まった懇親会には、多くのOB、岩崎崇（52期）元ラグビー部部長も参加し、泥だらけの青春の思い出を語りました。

OB総会前に行われた現役部員との激励会では、ラグビー部顧問の煙山哲史先生から部員の紹介があり、続いて動画による応援メッセージを中山有理君（67期、東大ラグビー部OB）、宮原克典君（77期、東大ラグビー部OB）から、また会場からは大竹由紀君（52期、早稲田大ラグビー部OB）から頂きました。2年後に80周年を迎えますが、その時には単独チームで大会に出場できることが目標です。これまでのOB諸兄の協力に御礼を申し上げ、引き続きご支援をお願いします。



長井 勉 (ラグビー部第5代OB会長)

## 同期会報告

### 42期同窓会

去る10月26日、キリン横浜ビアホールにおいて令和6年浅野学園第42期（昭和40年卒）同窓会を27名の参加者を得て開催し、年齢の割には元気で賑やかに実施できました。

私たちの同窓会は、同窓生が概ね社会の第一線から次第に後退する時期にあたり、若い過去を当時の仲間と振り返り、加えて年輪の証である知見を今後の人生に活かせる交流の場にしようと企画したもので、事実この同窓会での再会を契機とし新たな会合や展開が起きています。

第1回の同窓会は平成25年で今回が第5回になります。前回は平成30年に開催しましたが、その後感染症の流行の影響から中断しました。今回の参加者の特徴は、北は仙台市、南は熊本市から馳せ参じ、初参加者も2名いたことです。今の時代、高齢者になっても働く人が多くなり、仕事で欠席する方も多く見られます。今後も初参加者が出るでしょう。それだけに次回同窓会が楽しみといえます。

今野 茂雄 (42期)



### 48期同期会

10月14日のスポーツの日、我々浅野48期はコロナ禍で2年遅れの古希の会をローズホテル横浜にて開催しました。12年振りの同期会で連絡先を掴むのが困難でしたが、秋本会長はじめ幹事の皆さんのおかげで68名の参加となりました。同期の浅野セメントブルースバンドの演奏もあり、昔話に花が咲き、楽しい時がアツと言う間に過ぎていきました。我々古い先も短くなって来たので、これからは2年に1度くらいは同期会を開催しようと言うことになりました。

原 茂男 (48期)



### 52期同期会

52期卒業50周年の同期会は、10月26日に横浜駅西口のホテルプラム横浜にて開催されました。毎回、オリンピックイヤーに開催されていた同期会ですが、コロナ禍等で延期となり、8年ぶりの開催となりました。

出席者は、35名と予想よりごちんまりしていたものの、開会とともに皆50年前の浅野生に戻り、懐かしさと共に大いに盛り上がりました。

また、今回の同期会は、浅野学園同窓会が各期の同期会開催の活性化を図るために本年4月に設けた「同期会開催支援金制度」を利用する第1号として開催され、当日は、同窓会会長である湧井敏雄様にご出席をいただき、ご挨拶を頂戴しました。

会の最後には、全員で校歌斉唱し、2年後の古希の同期会開催を約束し、閉会致しました。

佐藤 義賢 (52期)



### 58期同級会

10月26日、昭和56年卒業生が新子安駅前の居酒屋「きしや」に集まり同級会を行いました。卒業後43年の月日が経過していますが50名が参加しました。

在学中から仲のよかった人同士はもちろん、中学・高校の6年間で一度も話をしたことがない人同士でも在学時の話で盛り上がる事ができ、改めて6年間を同じ学舎で過ごした意義の大きさを感じました。そして最後には全員で校歌を歌い、会を締めくくりました。

卒業後40年間は同級会を開催していませんでしたが、3年前に初めて開催して以降は毎年同級会を開催して年々参加者も増えているので、来年も開催する予定です。

柳澤 斉 (58期)



## 同窓生の近況



株式会社横溝工務店  
横溝 貢 (30期)

日本の復興の始まりの頃であった昭和23年に浅野中学校に入学しました。その時、銅像はありませんでした。戦中、銅像は供出され弾丸になるところだったそうです。幸にも、そのままの姿で見え、昭和34年に戻ってきたそうです。今では像の周りが整備されて憩いの広場となり、素晴らしい銅像になって感慨無量です。

先の同窓会長の中村順一さんは弁論部の部長

で、私も部員の一人でしたが、よく銅像山に駆け上り、海に向かって大きな声を出して発声の練習をしました。桜が山を覆って、そして緑に囲まれた学園は晴々としたキャンパスです。素晴らしい先生方に恵まれて、勉学できたことに感謝している次第です。銅像山そして学園の校舎を見る度に懐かしく思い出されます。



きものサロン貴  
石土 秀貴 (48期)

中区山下町のシルクセンター内アーケードにて、「きものサロン貴」という12坪ほどの小さな呉服専門店を営んでいます。元々は父の代から伊勢佐木町で70年ほど呉服商を営んでおりましたが、現在の場所に移転後16年が経ちました。ご存じの通り、呉服業界のマーケットは減少の一途を辿っておりますが、幸い私の店はお得意様にも恵まれています。高級呉服の他に、最近では洗える着物が人気です。若いお客様にも多数来店して

いただき、今のところ順調に商売を続けております。今年72歳になり、呉服業界50年を迎えますが、毎月の京都仕入れが商いの原動力になっているようです。京都仕入れ時に美味しい料理を食し、古寺を巡り、ぶらりと街歩きなど……。それらがゆとりある経営を続けていく秘訣だと思います。

浅野学園も創立100年を経過し、ますます発展しています。私の店も創業100年は無理でも、体力の続く限り頑張りたいと思います。



歴史作家  
伊東 潤 (56期)

早稲田大学社会科学部卒業後、日本アイ・ピー・エム(株)等の外資系企業を経て、今は作家をやっています。浅野在学中は映画と小説に耽溺しました。小説はジャンルにこだわらず手あたり次第読みましたが、司馬遼太郎氏の著作がとくに好きでした。ビジネスマン時代は、いつか起業し、世のため人のために役立つ事業を始めたいという志を抱いていました。それで2006年にコンサルタント会社を作り、最盛期で6人のコンサルタントを抱え、業績も好調でした。「起業して成功するのは

簡単だ」と思っていたのですが、2008年末のリーマンショックで解約が相次いだことで会社を整理し、2010年から専業作家となりました。作家転身後は6つのメジャー文学賞をいただき、直木賞候補に5回も選ばれ、今に至ります。

昨年からは執筆活動の傍らBS11の『偉人・敗北からの教訓』という番組でレギュラー・コメンテーターを務めています。昨今は「歴史小説の第一人者」「剛腕作家」などと呼ばれています。



渡辺歯科医院  
渡辺 宇一 (59期)

嘗て浅野には落語研究会という同好会が存在した。落語には「落ち」がつきものだから進学校の浅野としては都合が悪かったものとみえ、私の卒業後いつしか廃部になってしまった。在籍中、顧問は安部美雄先生と石川喜教先生。毎年打越祭で開かれる「浅野亭」では、お客様に大いに笑われるよう一懸命「噺」(はなし)を稽古したものだ。

卒業後は一転、人に笑われないように務め、落語者、いや落伍者にならぬよう心懸けてきた。その後、落伍者にはならなかったが歯医者(敗者)

になってしまった。現在、私は地元上大岡で歯科医院を開院している。お陰様で幅広い年齢層の患者さんがご来院くださり、日々歯科診療を通じて地域との交流・親睦を深めている。一方、港南区・横浜市の歯科医師会活動にも参画し、区民・市民の歯と口の健康づくりのお手伝いをさせていただいている。私の診療の目指すところは患者さんが一生ご自分の歯で美味しく食事を摂ることができるようにすることだ。歯を抜いてしまって「歯無し」になっては、それこそお話しにならない。



グローウィン・パートナーズ株式会社 代表取締役  
佐野 哲哉 (65期)

浅野に在学中は毎日腹が振れるほど笑っていました。会話の内容はまったく覚えていませんが、毎日学校で仲間に出会えることが楽しみでした。先生方から愛情のある「昭和の熱血指導」で教育を受けたのも良い思い出です。私達の学年は、先生との一体感が強く、卒業式には全員が涙を流していたのを鮮明に覚えています。高1の時に父が他界し、担任だった平山先生をはじめ、先生方には気にかけていただきました。大学受験で志望校に受からず浪人を考えていた私に、平山先生が「お

母さんに経済的な負担をかけず進学しなさい。嫌ならバイトして来年受験すればいい」と指導してくださいました。結果、現役で進学し、公認会計士試験に挑戦して合格したことが人生の転機となりました。

現在はコンサルティング会社を営んでおりますが、難しい局面でも辛いと思ったことはありません。前向きに対処できるのは、浅野で温かくも厳しくご指導いただいた賜物と感謝しております。



慶應義塾大学商学部 教授  
マーケティングジャーナル編集長  
小野 晃典 (68期)

「大学受験、やりたくない。AOでかまわない」と私が言った時、「お前のこと、軽蔑するぞ」と言って浅野の友達が止めようとしてくれた時のこと、今でもよく覚えています。その5年前、浅野に入っていたら、中学受験から解放された時と同じくらい鮮明です。大勢と競って、気乗りのしない計算問題を解いたり、思い出せるわけのない暗記問題を解いたりする試験は、どうしても性に合いませんでした。そんなふうに私は、受験戦線を

離脱しながら浅野を卒業していったわけですが、冒頭の友達の言葉が頭を離れず、いつしか、よく机に向かい、それを楽しむようになり、自ら学説を提唱するようになって、それを世界中の学者と競うようになりました。大学学内では、国内のいかなる競合大学の研究室より、多くの優秀な研究者を他大学に輩出できる研究室を運営することに努め、学外では、国内の研究者たちを束ねて、海外に負けない学術雑誌を育て上げようと奮闘中です。



株式会社ポニーキャニオン  
稲井 昌宏 (68期)

大学卒業後、太平洋セメント株式会社(旧アサノセメント)に入社、5年間在籍し退職しました。在学中、成績が伸び悩み進学をあきらめかけていた頃、恩師安井先生にビートルズの和訳の楽しさを教えて頂きました。恐らく、大学にいけばもっと楽しい英語が待っているよというメッセージだったのでしょ。それから猛勉強し2浪後、早稲田大学に入学。音楽、映画、演劇にはまり、社会人になってもその興味は変わらず、どうしてもエンタメで飯を食っていきいたいと思い、29歳で株

式会社ポニーキャニオンに転職、今日に至ります。営業時代は全国のCDショップやレンタル店を、音楽宣伝時代はアーティストと一緒に媒体をまわり、NHK紅白歌合戦に立ち会ったのは一生の思い出です。現在は映画や映像作品のセールスプロモーションを担当しております。

失敗を恐れず努力を重ねて目的を達成する「九転十起」の精神は浅野で学んだ宝物です。現在小学4年生の息子にも伝えていきたいです。



国立研究開発法人  
海洋研究開発機構  
松ヶ浦史郎 (70期)

中学1年に病欠1日だけの「ほぼ皆勤」だった学校好きの性格が祟って、浅野を卒業してから14年間も大学で過ごしてしまい、その後は横須賀の埋め立て地の果てにある海洋研究開発機構(JAMSTEC)に勤めています。JAMSTECへの認知度は高くなく、有人潜水船「しんかい6500」や掘削船「ちきゅう」、スーパーコンピュータ「地球シミュレータ」の方がピンとくる人が多いことでしょう。海に限らず地球科学を幅広く、大気から地震・火山、生

命の起源から天体まで多様なテーマを扱う研究所で、浅野では地学部ではなかったのに、今は地学にどっぷり漬かっています。

これまで航海に乗船する機会もあり、簡単には行けない外洋にも、海底にも行きましたが、昨年から陸に上がって研究成果の発信やメディア対応に従事しています。JAMSTECの名前を広く知ってもらえるように、若者向け番組の撮影場所に利用してもらおうということにも挑戦しています。



ソニー生命株式会社  
朽津 広達 (70期)

今年、三女が高校に入学し陸上部に入りました。私とは面識のない顧問から「お父さんは浅野で400mの選手だっただろ」と言われたそうです。私は高校3年生の時に神奈川県大会で優勝しましたが、30年以上も前の名前を憶えていたのは、「浅野」の選手が勝ったのが印象的だったのだと思います。大学まで陸上競技を続け、社会人になって30歳の時に現在の仕事に転職しました。自由に時間を作ることができたため、ボランティアで浅野

陸上部のコーチをやらせて頂きました。リレーで横浜市4位になった後輩たちや、跳躍でインターハイ出場を決めてくれた後輩など、今では良い思い出です。古梶校長や石井教頭は、八木先生とともに長く陸上部の顧問をされておりました。その先生方とのお縁もあり、今は年に一度、高1の家庭科でライフプランの授業を行っています。卒業以来30年が経ちますが、母校とずっと関わりを持たせてもらえるのは浅野の良さだと感謝しています。



相模原協同病院 外科医  
加瀬 匠磨 (91期)

「リングの外でちゃんとできない人間が試合で勝てるわけがないだろ」。かつて恩師が言っていた言葉です。高校で初めての試合。不安をかき消すように「教え」に従って、毎日朝早く学校に行って銅像山を無心で走りました。不安が自信へと変わり、1年生で関東大会出場、そのまま優勝し、世界ジュニア選手権への出場権も獲得しました。そこからなんとく負けないうという慢心から早朝に追い込むことが少なくなりました。帰国してから勝てない時期が続き、勝って当たり前と思うような試

合もいくつか落としました。振り返ってみると、常に挑戦する意志も覚悟もリングの外で作られていたのかなと思います。庄子先生に日本一の景色を見せることはできませんでしたが、外科医になった今、教わった信念を胸に早朝の静まり返った医局で毎日手術の練習を続けています。勝つのが当たり前で、その難しさを噛み締めながら幸せな日々を過ごしています。

浅野では返しきれないほどの恩を受けた私ですが、その教えを継ぐことができるようになることが次の挑戦です。